省電力UVインキ「NONVOC」マーク制定

日本WPA　熊本で復興支援総会

印刷会社、クライアントに啓蒙

プロモーションビデオ制作

一般社団法人日本WPA（田畠久義会長、日本水なし印刷協会）は第7期定期総会を6月16日、熊本市で開催した。全国から106社が出席し、熊本地震で被災した敷島印刷㈱の復興見学会と印刷通販で急成長するプリントネット㈱の小田原洋一社長の講演会を行った。新年度は省電力UVインキの「NONVOC」ロゴマークを印刷業界統一マークとして普及させ、クライアントに環境優位性の認識を広めると共に、日本WPAのプロモーションビデオを制作、バタフライロゴシールの活用などの新規事業を展開する。

日本WPA田畠会長

日本WPAは今年で結成15年、一般社団法人となってから7年目を迎えた。昨年から新たに元東レの小川勇造氏を事務局長に迎え、バタフライマークの普及と会員企業の発展に貢献する体制を刷新した。

今回の総会では熊本地震から復興する日本WPA会員の敷島印刷㈱を訪問。環境印刷へのWPAを発展させていく。昨年6月にdrupa視察、水なし印刷の国際交流、東レチェコ工場の見学、海外の協賛企業との交流、10月のエコプロ展の出展、エコかるたを作成した。また千葉大学画像工学科100周年のイメージラボ開設へ寄付金を贈呈した」と第7期事業を報告。さらに「商業印刷分野のUV印刷が進む中で新たに水なしLED―UV印刷を開始する傾向が出てきた。印刷機のリノベーションを実施した企業の評価は高い。リノベーションプラス後付LED―UV装置が今後の大きな流れになってきた。日本WPAの会員増にもつながっている」と今期の成果を報告した。

第8期は印刷会社、クライアント向けのプロモーションビデオの制作、ノンVOCインキのロゴマークの制作、バタフライマークシールの会員企業への配布、エコプロ展の出展、岡山市におけるカーボンオフセットの拡大、セミナー、見学会などの事業を推進し、3社の新規会員が加入した。

新年度は省電力UVインキのロゴマークは環境の優位性を訴求する印刷業界の統一マークとして商標登録、ダウンロードで会員を支援する。プロモーションビデオは印刷会社とクライアント向けを制作。印刷会社向けは収益性の向上、人材育成の短期化、品質の安定性、クライアント向けは環境優位性、高品質な印刷を訴求する。

また日本WPAでは今期バタフライロゴシールを新たに制作。印刷物の梱包材、外面、クライアントが梱包する際にロゴシールが自然と目に触れることでバタフライマークの普及を図る。さらに継続事業のカーボンオフセット事業、VOC、カーボンフットプリントなど、小川事務局長が事業の詳細を説明し、新年度事業計画、予算を承認した。

総会後は熊本県印刷工業組合員も参加してプリントネット㈱小田原洋一社長の記念講演会を行った。小田原社長は印刷通販への業態転換、東京西工場開設、水なし印刷の生産性向上の取り組みを解説。「プリントネットは対応品質を重視している。納期通りに商品が届き、対面営業を補うために何時でも連絡が出来るなど対応品質で信頼を高めている。中小印刷業界は業務資本提携、共同資材仕入、システム連携、グループ間の受発注、グループ間の人材派遣、金融機関の代表者保証の排除、後継者の問題克服が生き残るための課題と考えている」と述べた。

懇親会では奥継雄副会長が「私たちの選択肢は増えている。水なし印刷は環境社会に貢献する。WPAの役割は高い」と開会挨拶で乾杯、交流を深めた。

熊本で開催の日本WPA第7期総会

省電力UVインキ「NONVOC」ロゴマーク

熊本・敷島印刷を見学

水なし印刷と〝現場力〟視察

挨拶する敷島社長

日本WPAは6月16日、熊本県宇城市松橋町の敷島印刷㈱（敷島武法社長）の見学会を開催した。日本WPA会員ら約60人が参加し、環境対応・水なし印刷と「現場力」を掲げる敷島印刷を視察した。

敷島武法社長は「1年前の4月14日、熊本地震を今でも想い浮かべる。存続すら危ぶまれるほどの危機を感じた。建物の改築に約2800万円かけて工場を再建し、業界の皆様の支援と激励を受けて復興した。当社は昭和57年、私が26才の時に創業し今年で35年目を迎える。9年前にアキヤマ菊全8色両面機を導入した時に水なし印刷を始めた。当時は印刷品質の見当で問題を抱えていた。水なし印刷は見当に優れ、高品質、環境対応という特徴を前面に出しお客様からの信頼を得た。熊本本社、東京支社、福岡支店を持ち、水なし印刷の優れた環境対応と当社の強みである『現場力』を発揮したい」と参加者に説明した。

見学会は制作部門、印刷部門、仕上げ・加工部門を見学。敷島社長は「製版、印刷工程で排出されるVOCの排出規制、水質汚濁防止のために廃液、排水（DRAIN）を出さないという水なし印刷の理解が深まっている。しかし、さらなる普及のためには多くの課題もある。環境印刷の社会的役割をアピールすることが印刷業界全体に求められている」と述べた。

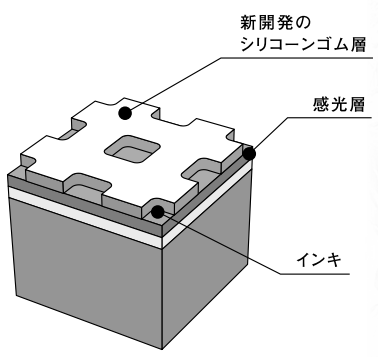
敷島印刷本社工場見学会

TORAY
Innovation by Chemistry

オフセット印刷の頂点。

水なしUV時代が到来。

地汚れする温度領域を広げた
インキ高反発の新製品「GU-8」



ついに、“オフセット印刷の究極”といわれてきた
“水なしUV”の進化が実現します。
地汚れ耐性が大幅に向上し、CTP版の表面にある
シリコーンゴム層に改良を加えた
インキ高反発の水なし版「GU-8」の開発によって、
HUVもLEDUVも容易に印刷できるようになりました。
しかも、ローラーの巻替え頻度も減少し、
水回りの資材が不要となる“水なしUV印刷”は、
間違いなくコスト削減につながります。

東レ株式会社
印写システム販売部 販売第2課
東京都中央区日本橋室町2-1-1
TEL03-3245-4513
FAX03-3245-4917

水なし印刷を実施すると…
資材が不要になります：エッチ液費、IPA費、不要、廃液回収費、水棒巻替え費
＋ 水あり印刷と比較すると 予備紙が削減します 3〜3.5%削減※
＋ 見当精度が改善されて 立ち上がり時間が 10分短縮※します

※菊全両面8色機を保有される会社での効果です

東レ水なし印刷公式サイト http://www.toraywaterless.com/jp/
未来の地球環境のために、私たちは水なし印刷を選びます 日本WPA公式サイト http://www.waterless.jp/